

相模湾地震災害状況放送劇シナリオ 3

避難場所 鵜沼中学校体育館 震災当日 地震発生から三時間半後
時間 二十一時三十分
気温 二度 曇
課題 動けないお年寄り等避難所にこられない住民の存在が分かった時どうするか。

状況設定

藤沢市指定の避難者名簿の作成について話し合っているところへ学校の裏側の住宅地で、自宅から動けないお年寄りが居るとの話が伝わった。

【ストーリー】

登場人物
藤沢市子（ふじさわ いちこ） 高校生・愛称チーちゃん
沢井 町内会役員で総務情報班
高橋 町内会役員で総務情報班
佐藤 藤沢市職員（避難所担当）
岡田 民生委員
避難者女A 助けを求めてきた中年女
避難者男B 大工職人
避難者女C 主人の帰りを待つ主婦
避難者女D けが人と高齢者の家族がいる

【市子のモノローグ】

体育館の中では、町内会ごとに分かれて集まっているので、顔見知りの人が増えて、お互いに慰めあったり、励ましあったりして、避難してきた人たちも落ち着いてきたみたい。少し前に町内の防災倉庫から持ってきた発電機で明かりがついたの、懐中電灯と違って全体の様子が分かるのが嬉しい。携帯ラジオのニュースでは湘南だけではなく伊豆や三浦方面も津波の被害にあったりして、神奈川県内は壊滅的だなんていつている。身近な情報はよく分からないけど、あとから避難してきた人たちの話だと、避難所の近所でもかなりの家が倒壊しているみたいで、藤沢駅周辺のビルや商店街では火災が発生しているんだって。夕方の買い物客で混雑していたから、ケガをしたり亡くなった人が大勢でいてるみたいけど、落下物でつぶされたり、車同士の事故でバスや乗用車が立ち往生していて、救急車も消防車も近づけないんですって。

発電機のエンジンの音、がやがや、ざわざわする館内。市子のモノローグに重なる。

慌てた様子で避難者の女A助けを求めてくる。

避難者女A

お願いです、誰か助けに行ってください！学校裏の住宅地に住むお年寄りが、足が悪くて動けないで自宅にいます。ここです。まだ他にも避難できない人がいるかもしれないので、町内を確認するための調査隊を出して下さい！。

総務情報班沢井

ここは避難者名簿の受付なので・・・。まっってください。

おい！衛生救護班！きてくれ！

衛生救護班高橋

何ですか。

町内会役員沢井

学校裏の住宅に避難できないお年寄りがいるそうなんだ。

避難者女A

足が悪くて動けないんですよ、助けに行ってください。

衛生救護班高橋

足が悪いって、寝たきりなのか。おっ、民生委員の岡田

さんあんた分かるかね。

民生委員岡田

名簿を持ってきているので分かると思います、名前は？

避難者女A

わかりませんよ、ともかく助けに行ったらどうです。

衛生救護班高橋

名前も場所もわかんないんだろ、安全が確認されていない

場所には、助けに行けないよ。

総務情報班沢井 消防署に連絡したらどうだ。

行政職員佐藤

緊急を要すると思われるので、消防署に連絡しますが、そう言う依頼が多くて、今は混乱していると思います。近所の人も含め、ここにいる人達の協力をお願いします。

避難者女A

行政でも町内会でもいいから、口だけではなくすぐにやって下さいよ。

民生委員岡田

名簿を持ってきているので、情報が入ってきた人についてはすぐに駆けつけますよ。

もめているのに気づいた人たちが集まってくる。

避難者女C

夫が帰宅してないので、私は他の人まで手助けは出来ませんが、誰か若い人とか、ボランティアで助けにいける人はいないですか。

民生委員岡田

そうだ、ここに集まっている人達の中からボランティアを募集しようよ。避難所リーダーから声をかけて下さい。

衛生救護班高橋

リーダーの町内会長は防災倉庫のほうにいらしているし・・・。

避難者男B

責任者はここにいないくちやいけないんじゃないの。

避難者女D

あなたは衛生救護者なんでしょ。

避難者女A

そうだ、あなたが決めてくださいよ。

衛生救護班高橋

衛生救護班の役目は、この施設に来た避難者の救護や倉庫からの救護衛生用品を配ることだよ。俺達だって被災者なんだから、こういうことは行政をお願いしますよ。

行政職員佐藤

避難所には、避難所の責任者がいるので、行政としては、動けないですよ。

民生委員岡田

責任者がいないのなら、誰か役員が町内でいない方を確認してください。行政からの情報が入ってきていないので、各町内会の方に頼みたいのですが。

避難者女C

困っている人がいるんでしょ、状況だけでも見てきたら。

避難者男B

我々が行ったって状況判断できないよ、民生委員のお世話になっっている人なら、ここに来るかどうかって本人の意思を確認する必要があるでしょう。

避難者女 A

民生委員と一緒にいつて状況を確認して聞き取りすればいいじゃないですか。緊急事態なので、プライバシーのことは行政職員と相談してクリヤしてもらって。早く民生委員と町内会役員で助けに行ってください。

避難者女 C

ほんとに申し訳けないのですが、主人が帰ってきたら行かせます。それまで避難所で動ける人やこの近所の人達、それから鵜沼地域外からこの避難所に来ている人にも助けてもらったらどうでしょう。自分が動ければ助けに行くのだけでも……。

行政職員佐藤

早くしろと言われる気持ちはよく分かります。ですが、このことは消防署・警察署に任せたい。情報を町内でまとめて、災害本部に救援を求めて欲しい。

避難者女 A

責任者がいないんなら、ここに居る役員が相談して、調査グループを決めて状況把握に行ってください。

避難者女 D

避難所のリーダー達は何もやってないじゃないの。

衛生救護班高橋

そういうが、これは避難所リーダーの仕事ではない。現状では避難所に集まってきた人達のケアで手一杯だ。

避難者女 D

でも……。

衛生救護班高橋

私としては、この場を離れるわけには行かない、民生委員や行政と協力はしていくけど、今は避難所内の仕事で精一杯だ。

行政職員佐藤

リーダーは避難所の運営が基本的な役割なので、高橋さんのおっしゃるとおりでよいと思います。組織作りが必要だが、リーダーに任せてばかりではいけない、私も協力するので、皆さんで組織作りをしましょう。

避難者女 A

この人の言うとおりの、救助チームをつくりましょう。担架も必要になるわ。

避難者男 B

確かに担架があるな、学校になけりゃ毛布でも利用して造らなきゃいけないな。

避難者女 D

私は、つれてきた年寄りやけが人がどうなるかわからないので側を離れられないの。意見だけで申し訳ないですけど、この近所には何人くらい動けない人がいるんですか。

民生委員岡田

自分が住んでいる組の調査では、三人の身障者がおられます。避難場所まで自分で来ることは不可能です。一人暮らして介護が必要なので自宅待機の希望が強くて、つれてくるのも困難です。

避難者男 B

寝たきりで介護が必要だと、一人じゃ重くて運べないな。毛布を持って様子を見に行ったらどうだろう、暗い中をつれてこな

くても、寂しいなら一緒に居てあげたらいい。

避難者女A　それはいい考えだわ。

衛生救護班高橋　でも、家が壊れていて、入れなかったらどうするんだ。

避難者女A　行つて見なけりや分からないじゃないの。

避難者男B　そんなときの状況しだいだよ。臨機応変にやらなきゃ。

避難者女A　そうよ、ともかく命にかかわることなのよ。

衛生救護班高橋　少人数じゃ危険だよ。

避難者男B　もちろん、単独行動ではなく複数で行つてさ。後からくる避

難者にも調査隊に参加してもらおう。

行政職員佐藤　状況が厳しいので、救助チームを無理にお願いするのは難

しいと思いますが、一チーム五名程度でそれぞれの方面に救助に行くことにしましょう。

避難者女A　うちの子供は中学生だがボランティアとして使ってもらいた

いです。

避難者女C　でも、危険な場所に子供は行かせたくないと言う人もいますよ。

避難者女D　行政としての意見を聞かせてください。

行政職員佐藤　中学生も協力してくれるのは嬉しく思います。でも今は夜ですから、生徒のボランティアのことは明日にでも教育委員会に連絡しておきましょう

民生委員岡田　懐中電灯を持って自分達の安全も考えながら、二、三人で

救助チームと一緒に助けに行くようにしたらいいでしょう。

行政職員佐藤　ともかくみんなに声をかけてみましょう。高橋さんはここにいて、集まった人の役割分担をお願いします。

避難者男B　よーし、それじゃ俺は大工だからよ、担架でも作るとするか。

避難者女A　私は、救急箱を持つてくるわ。

行政職員佐藤　さあ、手分けしてはじめてみましょう。

各自に、救助チームを募集に行く

【市子モノローグ】

校庭に出て駅のほうをみたら、空が赤くなっていて……。きつと大勢の人がケガをしたり、閉じ込められたりして助けを求めているんだろうと思う。あの下に苦しんでいる人が大勢いると思うと。暗い中助けに行くのは危険かもし

れないけど、できる限りのことはしたいっていう気持ちは誰も同じだと思う。

遠くで緊急車両のサイレンの音、絶え間なく聞こえている。

ストーリー3 終わり

地域発防災ラジオドラマ

現状とドラマ（フィクション）との相違点

● 二〇〇九年現在、藤沢市には市内の公立学校等を中心に八十一か所の施設が避難所として指定されています。一定の規模以上の災害が発生すると各避難所にはあらかじめ担当が決められた市職員（複数名）が駆けつけ、避難所開設の準備をはじめます。このドラマでは停電して暗い中、あえて担当者が駆けつけられない（何らかの事情が発生した）と想定して、避難所担当職員がいない中で住民だけでどうするかを協議するシーンを作りました。

● 市内の公立学校については、おおむね耐震性が確保されている状況にあります。鶴沼中学校も耐震補強が完了してはいますが、いくら耐震補強がしてあっても、施設に入る前には安全性を確認する何らかの行動があり、かつそこには地域の協働関係が象徴されると考えて、あえて議論されるシーンを作りました。なお、藤沢市の避難施設マニュアルには簡便な安全性チェックシートも用意されています。実際のシナリオワークショップでは、建物に少しでも不安があるときは、校庭で待機するほうがよいという意見が出たグループもありました。

● ドラマではわずかなシーンですが、ペットと離れられないと主張する住民と、避難所の関係者のやり取りが描かれています。ほとんどの避難所運営マニュアルではペットの持ち込みは原則禁止となっています。アレルギーがある人や動物が苦手な人がいる現状にかんがみて、避難所内にペットを自由に持ち込める状況にするのは難しいと思いますが、地域で何らかの工夫が出来ないか、事前に検討しておくことは可能だと思えます。柏崎市ではペットと離れたくないという住民のために、避難所となった学校の駐車場に停めた車の中に入れたという事例もあるようです。藤沢市ではペットを専門に扱う事業者との協定を結んでいるところもあります。

● ドラマでは避難所運営組織の各役割が決まっているので、組織は順調に動いている形に描かれています。実際にはこの舞台となった鶴沼中学校地区の避難所運営体制の組織化は、まだ緒に付いたばかりでドラマ制作時点では個々に役割があらかじめ決められているわけではありませんでした。鶴沼中学校地区防災連絡協議会では平成二十二年二月に避難所設営訓練を実施し、実際の場面になったら現場でどのような課題が生じるかを、実際に体を動かして検証・確認することが決定しています。

● 災害時の公的支援を効率的に行うためにも、避難所の実情をその都度、市の対策本部に送り、状況認識を共有化しておくことは重要です。誰がどこにいるかがわかれば、被災地外からの連絡や安否確認の際には大変都合がよいといえます。しかし最近の個人情報がらみのトラブルにかんがみて、住民の中には本当のことを書きたがらない人が出てくるかもしれないと考えてこの課題を設定しました。町内会・自治会で名簿が作成されていない（作成が難しい）地域が増えていくようです。藤沢市の避難施設運営マニュアルには書式が定められていますが、そこに項目があるからすべて埋めると考えずに、それぞれの項目がなぜ必要かを住民自身で考え、判断することが重要であると考えられます。

● 鶴沼中学校地区ではいわゆる戸建て住宅からなる町内会・自治会だけではなく、一部のマンションの管理組合からなる自治組織が参加した形で防災連絡協議会を構成しています。防災連絡協議会に加入している自治会、管理組合の関係者間の合意形成には問題がないと思われませんが、地域のすべての共同住宅の居住者が参加しているわけではありません。したがってここで議論されたようにマンションによってはほとんど交流がないところも存在しています。

● 藤沢市では地域内住民を主体として、災害時のボランティア活動を支援するための組織藤沢災害救援ボランティアネットワーク(FSV)が活動しています。ここで取り上げたような課題の解決のためにも地元で活動するボランティアコーディネーターとしての役割が期待されます。